

平成27年度第2回 大和市子ども・子育て会議 会議録

日 時：平成27年7月14日（火）

午後2時～午後3時30分

場 所：大和市保健福祉センター

5階 501 会議室

欠席者：小笠原委員、村田委員、

鳴海委員、佐藤委員

傍聴者：1名

1 開会

事務局：

- ・新任委員の紹介（1名）

2 部長あいさつ

皆さんこんにちは。暑い中ご出席いただきありがとうございます。皆さんも体調には十分ご注意くださいと思います。

さて、4月の会議の中で待機児童数の状況について、計画上の数値と実際の数値に乖離が生じているというお話をさせていただきました。本年度、待機児童数が大幅に減ったことから、昨年の同時期と比べると低い水準を保っていると感じてはおりますが、今年度もさらに保育所等の整備を進めていきたいと思っております。

また、新制度が始まり3か月が経過しましたが、大和市では皆様のご協力により大きなトラブルもなく、また、市民の皆様にご迷惑をかけることもなかったと安堵しているところでございます。

本日は会議のスケジュールに従い、次世代育成支援行動計画の進行管理についてお話をさせていただきますが、皆様をお願いすることが多々ありますのでよろしくお願い致します。

3 会長あいさつ

本日はお忙しいところ、また、猛暑のなかお集まりいただきありがとうございます。

保育園等では新制度になってから3か月が経過しました。学校も今年度から3学期制ということで1学期が終わりました。それぞれの場所で新制度が始まったものと思っております。

本日は、次世代育成支援行動計画の平成26年度分評価につきまして、活発なご審議をよろしくお願いいたします。

事務局：本日の欠席委員は4名で、17名中13名の委員のご出席をいただいております。委員の過半数を超えておりますので会議は成立します。また、この会議は公開を原則としており、本日は傍聴の方が1名いらっしゃいます。

4 議事

(1) 次世代育成支援行動計画（平成26年度分）の評価について

- 会長 : 次世代育成支援行動計画（平成26年度分）の評価について説明をお願いしますが、資料が大変多いので、まず、お手元の資料1-1から1-3までについて事務局より説明をお願いします。
- 事務局 : 次世代育成支援行動計画（平成26年度分）の評価について、資料1-1から1-3により説明
- 会長 : ただいまの説明について、ご意見やご質問がありましたらお願いします。
- 委員 : サンプルにある「つどいの広場事業」を例として伺います。開設箇所数の21年度の実績値とあるが、実績値ということは、21年度に何箇所か開設しようという指標があったのか。
- 事務局 : 3か所以上を目標値としていました。
- 委員 : 20年度の指標値と21年度の目標値は同じ数か。その年度の実績に対して目標値が立てられるものと思うがいかがか。
- 事務局 : 「現在は2か所ですが、あと4年間で4か所にしたい」というように計画のなかでは目標値を立てるのが通常です。しかし、げんきっこプランを作った時期は予算的にも非常に厳しい状況にありましたので、目標値だけが先行し、それに対する予算が伴わないという状況が多く見受けられました。そこで、このプランでは「2か所を3か所以上に増やし、充実させていきたい」というように目標値を設定しています。このとき、目標達成は3か所以上に増やした場合ですが、実際には平成26年度の時点では作ることができず、現状維持となったものです。それを198事業すべてにあてはめると目標値に対して予算の裏付けが全くない計画となってしまいます。そして、その年度ごとに予算要求をしていくのですがなかなか計画通りに予算がつかないという状況が続き、結果として現状維持となったものです。

わかりやすい例としては「地域育児センター事業」があります。指標値は平成20年の実績値です。本来は実績値に対して目標値を設定するのですが、予算の裏付けのないまま計画値だけが先行していくと意味のない計画になってしまいます。取り組みの方向は「充実」という考え方で、「この取り組みはより充実していきましょう」ということが目標となります。そして、この20年度の実績値に対して上がったか下がったかを判断し評価を行うものであります。

また、「子育て支援ネットワーク推進事業」は平成20年度には無かった事業です。今後取り組んでいきたいと思いますということで、取り組みの方向は「C」です。そして、平成22年度にこの事業は実施していますので目標は達成されたと捉えます。このような手続きにより進行管理を考えてお

ります。

委員 : 先ほどの質問の意図としては「どれを指標としているのか」についてお聞きしたものである。平成20年度の実績値を指標値としていることは分かった。今年度の評価は5年前の実績値と比較して上がったのか下がったのか評価をしており、委員も同様に評価を行うということで良いか。

事務局 : そのとおりです。

事務局 : 計画の作り方については、例えば、5年後の最初の目標値を定めて、段階的に毎年毎年目標を再設定していくというような方法もあると思いますが、先ほどの説明のとおり財政的な裏付けのないまま進めることで良いものかを考えた結果、計画を作った時と比べて良くなったかどうか、そこで評価しようということになりました。この5年目が最後の年度となりますがここでも当初策定した時と比べて評価を行うこととなりますのでご理解をお願いいたします。

委員 : これまでは、平成20年の指標値をベースに、各年度の実績を評価してきた。今回は、計画の最終年度にあたり5年間でどうなったかという評価は多少とも入っているのか。それとも、これまでどおり平成20年と平成26年を比較するのか。

事務局 : 単年度ごとに実績を評価・公表してきた経過がありますので、今回は平成26年の単年度で考えます。当初はご質問にあるように5か年間の評価指標等、実績に合わせて評価を行う考え方も一つにはありましたが、平成27年4月から子ども・子育て支援法が施行され新たな計画と保育環境のもと事業が進められておりますので、次世代育成支援推進法に基づく内容につきましては、そこまでの分析を要しないと判断したものです。

委員長 : ほかに、ご質問等ありましたらお願いします。

委員 : 無し

会長 : 続きまして、資料の1-4から1-6まで、事務局より説明をお願いします。

事務局 : 次世代育成支援行動計画（平成26年度分）の評価について、資料1-4～1-6により説明

会長 : ただいまの説明について、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

委員 : 「C」が現状維持との説明であったが、○△×の中には「C」の現状維持に当たるものがない。どのように評価すべきか。

事務局 : 具体的な数値目標を出していない計画に対する評価ということで、様々な要素を考えた結果として今回の評価方法となっています。ただいまのご質問につきましては「△」として評価いただきたい。

来年度以降、新しい子育て支援プランは目標数値が出されておりますの

で、今回と状況は変わるものと考えます。

委員 : 「Cだから△をつける」ということではなく、この資料と見比べながら各委員の主観で評価すべきものとする。

事務局 : 事務局の内部評価と委員の皆様の外部評価は異なるものです。さらに進めれば、影響を受けるべきものではありませんので、その点は、ご意見のとおり各委員の主観でご判断願います。

会長 : ほかに、ご質問等ありましたらお願いします。

委員 : 無し

(2) その他について

会長 : (2) その他について事務局よりお願いします。

事務局 : その他。今後のスケジュールについて説明

会長 : 委員のみなさまから何かありますでしょうか。

委員 : 無し

事務局 : この場をお借りして、今年度から来年度に向けての保育所の待機児童解消に関する状況をご報告いたします。前回、4月時点の待機児童数を報告しましたが現在におきましても待機児童の解消には至っておりません。市ではできるだけ早期に待機児童ゼロを実現したいと考え、取り組みを進めております。本年度は新しい計画であるやまと子ども子育て支援事業計画に基づき整備を実施しており、市の南部に認可保育所を1箇所、他に、既存の認定保育施設を認可化する計画があります。

ここで、4月1日の待機児童の状況をみますと、市の北部から中部にかけて待機児童が集中していることが分かります。そのためこの地域に施設整備が必要と捉えており対応を進めているところでございます。具体的には、今年度、市の北部に認可保育所をさらに1箇所整備したいと考えております。これはこの計画における事業量を超えて整備するのではなく、計画の前倒しをして早期に待機児童を解消したいという意図でございます。さらに来年度の予算に向けて、認可保育所ならびに新制度で事業が創設されました小規模保育事業の運営法人を公募するなど検討をしており、早期の待機児童解消を目指しております。この会議等において整備計画は各委員さんにお示ししていきたいと考えておりますので、待機児童の早期解消に向けての担当課としての取り組みにご理解をお願いいたします。

委員 : 市の待機にはカウントされていないと思うが、現在、幼稚園で待機が8組ある、満3歳で空きができたところで入園できるが、空きができなければ、新年度まで待って3歳クラスで受け入れることとなる。また、それに関連して、満3歳は誕生日以降でないとならば就園奨励費の対象とならない。さらに就園奨励費に関しては兄弟が多い家庭では、上の子が3年生から上になると就園奨励費の計算上の優遇に該当しないなど、制度に問題があると

考える。

一方、小児医療費助成制度に関して、大和市では市独自の取り組みとして中学生までを対象とした事業を行っており、就園奨励費に関しても小児医療費同様に市独自の取り組みとして対応していくことが必要だと考える。新制度による事業を進めることに限らず、本当の意味での子育て支援になるのではないかと考える。新聞報道では今後、国が医療費の支援を進めるというものがあり充実が予想される。就園奨励費に関して市では「国の制度に従いながら行っている」という説明がされているようだが、小児医療費と同様に充実を図ってほしい。

満3歳で幼稚園入園を希望する市民が増えており、医療費制度同様に市として就園奨励費の充実が子育て支援につながると考える。難しいことかもしれないが、ぜひ検討をお願いしたい。

事務局 : ただいまのご意見につきましては、今後の検討事項とさせていただきます。

委員長 : 他にご意見等ありましたらお願いします。

委員 : 無し。

委員長 : 以上をもちまして、本日の議事をすべて終了いたします。

1 閉会

佐川職務代理よりあいさつ。

長時間に渡るご審議ありがとうございました。挨拶の前に1件報告をいたします。この会議からの推薦により参加しております大和市文化創造拠点運営審議会が6月8日に開催されました。建設現場の視察等を行い工事はほぼ計画通りに進んでいるとの説明がありました。この会議に関連する屋内こども園につきましては、現時点では建物の全体像もつかめないう状況でしたので、ここで報告できるものはございません。今後、市民対象に建設状況を報告する機会を設けるとのことでした。また、施設の愛称募集がされており6月末の締め切りで約2,000件の応募があったという報告を受けております。次回の審議会が11月にありますので、その経過もこの子ども・子育て会議で報告したいと思います。

さて、会議の初めに新しい制度が始まってから3か月を大過なく経過したとの挨拶がありました。そこには現場のみなさんや市のご担当のご努力があったことと思います。一方、現場やご家庭の混乱も少なからずあったものと思います。この会議では新しい制度の評価の前に平成26年度までの前回の計画の評価を行うようになっており、委員の皆さんのお知恵をいただきたいと思ひます。お忙しいことと存じますが、委員の皆様にご協力をお願い申し上げます。本日の会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以上